

カトリック山形教会報 かすみ

カトリック山形教会報

11

2014.11.16



カトリック山形教会

〒990-0039 山形市香澄町2丁目11-15 TEL.023-622-3574 FAX.622-3590
ホームページ <http://www.catholic-yamagata.com/>



羽黒山で宗教者懇話会

10月17日(金)、羽黒山の三神合祭殿を会場に「山形県宗教者懇話会祈りの会」が開催された。山形県内のさまざまな宗教団体が宗教の垣根を超え、東日本大震災の被災地復興を願い、ともに祈りを捧げた。この日は、神道、仏教、キリスト教、新宗教の16団体から信者ら140人が集まり、主催した県宗教者懇話会会長の清原浄田前立石寺貫主が「被災地の一日も早い復興を祈り、それが広まっていくことを願います」とあいさつした。宗教ごとに震災犠牲者の鎮魂と被災地復興を祈った後、鐘楼で鎮魂の鐘を突いた。山形教会からも30人がこの会に参加した。

宗教者懇話会の小旅行に参加して

洗礼者ヨハネ 沼沢忠一

陽光に映えて、錦織りなす紅葉の秋晴れの朝を夢見て目覚めたが、外は、あいにく雲は低くたれ薄暗い朝だった。気温も低く肌寒い、準備が整い出かける時には小雨も降り出していた。

でも、山形を出発し羽黒山頂の会場に着くまでのバスの中から、道々(月山道・羽黒山道)の折々に、大小さまざまな、色鮮やかな紅葉を多く眺めることができ、感動と安らぎを貰いました。

会場となった月山、羽黒山、湯殿山の三神を祀る豪壮な

萱葺屋根の合祭殿は、何時見ても東北随一と言われる威風と重厚さを持っています。また、周囲の樹齢350～500年の巨大な杉並木が一層厳肅さを高めています。

定刻(11時)になり、およそ140人の参加者が集まった合祭殿で平和の祈り「東日本大震災犠牲者慰霊・復興祈願」が式次第に従い、まず、出羽三山神社神官のお祓い、次に武田事務局員の開式の辞と、山形県宗教者懇話会長の清原浄田山寺前立石寺貫主の挨拶があり、続いて、出羽三山神社の宮野直生司官の講話と続きました。

次に、今日の集いの本番である16宗教者団体が、それぞれが属する5つの宗派ごとに、次の順に、およそ15分づつのお祈りが捧げられました。



カトリックと聖公会の神父による祈り



屋外の鐘楼で各宗教の代表者が鐘楼の鐘を突いた



宮司から玉串を受け取る本間神父



帰路に立ち寄ったカトリック鶴岡教会の墓地



リニューアルされた加茂水族館のアシカショー

1. 神道(神社)合同の祈り 白装束に身を固めた30人程の宮司達が一緒になって祝詞奏上に鳴物(鐘・笛・銅鑼等)も加えたお祈りでした。
2. 寺院合同の祈り 袈裟(法衣)を着用した10人程の僧侶達が一緒になってお経に鳴物(太鼓・鐘等)も加えたお祈りでした。
3. キリスト教合同の祈り カトリックと聖公会の神父2人の司式により聖歌・司式者の祈り・参加者一緒によるお祈りでした。
4. 立正佼成会教団合同の祈り 5人の先達のもと参加者も一緒になって共に捧げるお祈りでした。

様々な宗教団体が宗派の垣根を越えた一同に会しての祈りに参加して、他の宗教の個々の祈りの内容は理解できない事が多かったが、どの宗教団体の方々も祈りを大切にしていること、心をこめて祈りあう事の必要性・重要性を理解すると共に、この広がりが相互の理解と信頼により、平和の基礎ともなりえるのだと強く感じました。

ここで、合祭殿室内での祈りが終わり、外の鐘楼へ全員移動して、各宗教者団体の代表者ごとによる打鐘で、東日

本大震災犠牲者慰霊・復興祈願の式典が無事終了となりました。

この日は、出羽三山神社の祭礼の期間中であり、合祭殿には、一般の方々の礼拝者観光客がひっきりなしに訪れており、扉を閉める事ができず、式典会場に外の冷たく寒い風が吹き込み参加者はそれに耐えることが大変だった。

帰路、先ず鶴岡のカトリック教会墓地を見学する。墓地は、小高い山の見晴らしの良い斜面を段々にしてそこに個人墓地が造られていた。墓の大きさはさまざま、平地の広場には、墓地祭壇、共同埋葬地、ひとこまごとの個人墓地等が造られていた。

最後に、今春リニューアルされた加茂水族館「くらげルーム」を見学した。

館内には、数多くの珍しいクラゲ、小さいものから大きいものまで、今まで見た事もない不思議なクラゲ等、種類も多く展示・飼育されていた。また、アシカショーも観賞する等して暫くぶりに童心に戻って暫し楽しんでいました。

帰りには、雨もあがり、晴れの穏やかな気温となっていました。多くの方々と心をつなげた祈りの集いと楽しみ的小旅行となった今日の一。神様と皆様に感謝して。



クアハウス基点にて会席料理と 新しくなった温泉入浴の癒しの旅

東根マリア観音

フェリペ・フランシスコ 関根光一

9月18日(木)、福利厚生部企画により、東根市龍泉禅寺に安置されているマリア観音(子安観音)の巡礼が、総勢20名の参加で行われました。

この龍泉禅寺は、江戸時代からの街道である関山街道にさしかかる場所に位置します。安置されている建物に入ると、そのマリア観音はあった。パールを被った女性が片ひざを立てて座り、右手で幼子を抱え、切れ長の目がその子に向けられている。まだ髪のない幼子は右手を垂直に立てて女性の胸のなかで、しっかりと向き合っている。その産着は、和風の寝間着ではなく、襟と袖にフリルのような装飾がほどこしてあります。

若いご住職が、このマリア観音のいわれを説明してくれました。

江戸の昔、京都から北前船で酒田に入った、ひとりの旅人が一夜の宿を求めてこの寺に立ち寄った。彼は関山街道を超えて仙台に向かうという。そこには関所があり、役人に見つかると危ないので、自分が戻ってくるまで預かってもらいたいと、住職に託した。次の日、彼は旅立ったが、二度と戻ってくることはなかった。長く寺の床下に隠していたが、キリシタン禁制が解かれたころ、新たに光背をこしらえて安置し、今に至っている。

近年、東北芸術工科大学等による調査で、体内に十字

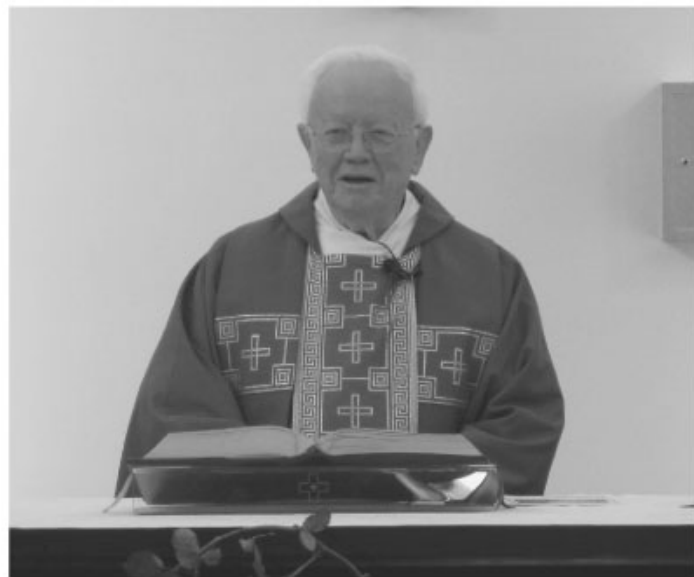
の印が確認され、また

目がガラス玉でできていることなどから、幼いキリストを抱いた聖母マリアであることが認知されているとのことでした。ご住職のお話の後、ロザリオの祈り一連を唱え、お寺をあとにしました。

高さ40cmのマリア像に母性愛とやさしさを感じました。また、当日は近くの大櫓を見学し、基点温泉で昼食、入浴などを楽しみ、最後に最上徳内記念館を拝観したりと、盛りだくさんの内容で、充実した一日となりました。



昭和30年代前半、聖心会フランス管区が司牧していた頃、主任司祭のブッシュ神父はレジオ・マリエの人たちとバスに乗り、しばしば龍泉寺を訪れていた。マリア観音の前に座り、みんなでロザリオの祈りをしていると、寺の住職が笑顔でお茶を出し歓迎してくれたそうだ。山形教会100周年のときに再び山形の地を訪れたブッシュ神父は、やはりこの寺に行かれ、遠い昔の熱心な信者を思い出されていた。(山形教会報2000年11月号より)



ヒーリー神父、山形でミサ

思いがけない再会に感謝

ヨハネ 小林雅人

10月26日(日)、かつて山形教会の主任司祭でもあられたヒーリー神父司式のミサがありました。私にとっても、1984年の春、山形・茨城両県の青年を対象にした「召命の集い」以来、30年振りの再会でした。高齢にはなりましたが、笑顔は昔のまま、懐かしい思い出が蘇りました。

誰にとっても、印象深い神父はおられると思います。私にとってヒーリー神父はその一人です。

私が小学一年のとき、米沢教会に赴任してこられたのがヒーリー神父でした。米沢教会の巡回教会だった高島教会(私が所属していた教会)でも、サイモン神父に代わり、ヒーリー神父が主にミサを捧げるようになりました。とても穏やかで、マイカーなどとは縁遠い時代に愛車「ブルーバード」でやって来る神父はとてもカッコ良く子供心に映りました。

その頃、第二バチカン公会議により、「ミサ」が大きく変わったことも印象に残るひとつの要因だったのかもしれませ

ん。信者に背を向けていたものが対面のミサに変わり、祭壇にたくさんの教典を並べたり、侍者はラテン語を使わなくてもよくなりました。侍者予備軍だった私もラテン語を暗記する必要がなくなり、「ホッ」とした記憶があります。

また、ヒーリー神父の名前を聞くと、何故か足のしびれが真っ先に頭に浮かんできます。当時の教会は民家を借りた小さな建物で、信者が20人も入ればすし詰め状態でした。畳敷きで、ミサ中は正座でいなければなりません。小学生に一時間近い正座はとても苦痛でした。弟は説教中に居眠りをし前の人に倒れ、後の「笑い話」になりました。

何より印象に残っていることは、若い人たちに司祭になることを勧めていたことです。小学生の私にさえ、いつも「将来、神父になりなさい」…。大人にするミサの説教とは別に子供でも分かる「神様からの言葉」をいつも用意しており、錬成会などにも参加させてもらいました。神父になることはありませんでしたが、今、こうして教会に足を運んでいるのは、子供の頃に受けたヒーリー神父の「神様からの言葉」が、心のどこかに刻まれていたからでしょう。

フォトグラフ



●北山原で記念ミサ 7月13日(日)



●聖母被昇天に洗礼式 8月15日(金)



●マリア祭バザー 9月28日(日)